

1. 食料品                      2. 輸送用機械                      3. 化学工業                      4. せんい工業

1. 地殻変動によって山脈の一部が激しく隆起し、その周囲が相対的に低くなることで形成される。
2. 火山から吹き出した火山灰や軽石が、長年にわたって周辺の平地に厚く降り積もることで形成される。
3. 大規模な噴火によって地下のマグマが放出され、空洞になった山頂部が崩れ落ちることで形成される。
4. 波の浸食作用によって海岸の岩場が削られ、さらに地盤の沈降によって複雑に入り組んだ地形として形成される。

1. 冬でも温暖な気候を活かし、ビニールハウスを用いた促成栽培によって、高知平野と同様に野菜の出荷が盛んになった。
2. 筑後川下流の広大な平野を活用し、クリークと呼ばれる水路を整備することで、日本有数の米の生産地となった。
3. 山地が海岸まで迫る複雑な地形を活かして、斜面での段々畑によるみかんの栽培と、リアス海岸での真珠の養殖が発展した。
4. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水はけが良すぎて稲作に適さないため、豚や肉用牛、鶏などの畜産が発展した。

1. 低緯度から熱を運んでくる「暖流」である黒潮が、日本の南岸から東岸に沿って流れているため。
2. 大陸沿いに南下するリマン海流によって、冬の乾いた季節風が温められるため。
3. 高緯度から冷たい水を運び「寒流」である親潮が、太平洋の沿岸部を冷やしているため。
4. 日本海側を北上する対馬海流が、対馬海峡を通じて太平洋側に大量の熱を供給しているため。

1. 福岡県・佐賀県・熊本県      2. 福岡県・愛知県・静岡県      3. 佐賀県・滋賀県・茨城県      4. 愛知県・群馬県・滋賀県

1. 飼育戸数と総飼育頭数の両方が減少したことで、豚肉の希少価値が向上している状況
2. 小規模な農家が多数残っており、伝統的な飼育方法が守られている状況。
3. 養豚農家の減少に伴い、県全体の豚肉生産能力が著しく衰退している状況。
4. 1戸あたりの飼育頭数が大幅に増加し、経営の大規模化が進んだ状況。

1. 福岡市は夏に雨が極端に少なくなる瀬戸内の気候の特徴を持つが、宮崎市は黒潮の影響で冬でも降水量が減らず、一年中多雨である。
2. 宮崎市は福岡市に比べて年間の総降水量が少なく、特に夏から秋にかけては乾燥した晴天の日が続くため、水不足になりやすい特徴がある。
3. 宮崎市は冬の季節風の影響で12月・1月に降水量が最も多くなるが、福岡市は年間を通じて降水量の変化が少なく、常に一定の雨量がある。
4. 福岡市は梅雨の時期である6月・7月に降水量のピークがある一方で、宮崎市は台風や季節風の影響を受け、夏の降水量が月間600mm近くに達するなど非常に多い。

1. 若年層の他県への流出が止まり、合計特殊出生率が急激に低下したため
2. 他県から移住してくる高齢者が多いため、死亡率が全国で最も低くなっているため
3. 出生率が全国的に見ても高く、死亡数を上回る自然的増加が続いているため
4. 観光産業の発展により、県外からの労働者が転入し続ける社会的増加が主な要因であるため

1. 東北地方                      2. 九州地方                      3. 北海道                      4. 関東地方

1. 奄美大島                      2. 壱岐島                      3. 屋久島                      4. 種子島

1. 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水を運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。
2. 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。
3. 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。
4. 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。

1. カルデラの底部には常に水が溜まっており、巨大な湖としてのみ利用されている。
2. カルデラ内には広大な草原が広がり、牛や馬の放牧が行われている。
3. カルデラの周囲は火山灰が堆積したシラス台地となっており、サツマイモ栽培が盛んである。
4. カルデラの急斜面を利用して、大規模な稲作や果樹園が展開されている。